

品目別の再商品化量推移及び実施市町村数推移(グラフ)

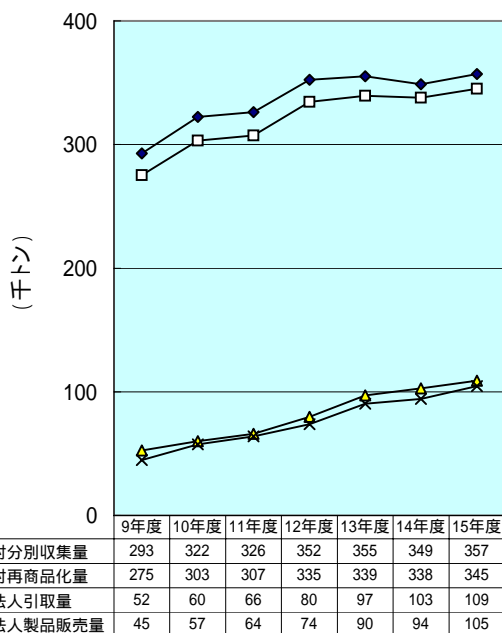
1. ガラスびん(無色)

制度開始当初から、随意契約による市町村独自再商品化量(市町村再商品化量と指定法人引取量の差)が再商品化量の大宗を占めている。

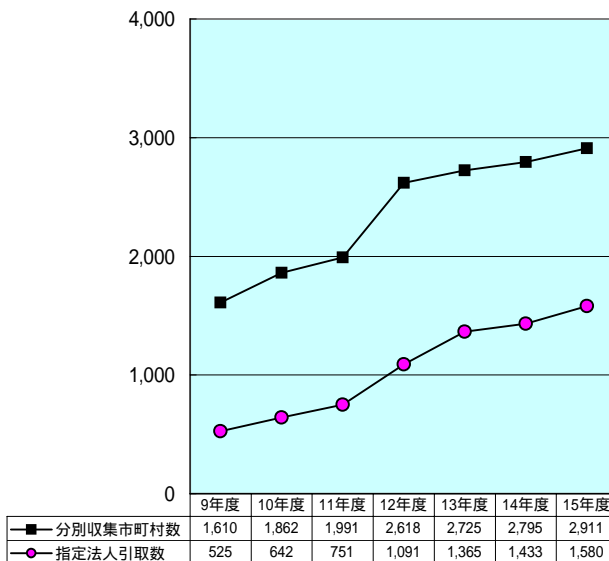
一方、市町村独自再商品化の状況に大きな変化は見られないことから、市町村再商品化量の増加分は、指定法人ルートで再商品化されているものと推定される。(平成9年度に19%であった指定法人引取の割合は、平成14年度に30%まで上昇。)

分別収集を行う市町村は増加基調にあり、平成14年度には全国市町村数の約86%に当たる2,795市町村が分別収集を行っており、このうち約半数の1,433市町村が指定法人ルートで再商品化を行っている。

【再商品化量推移】



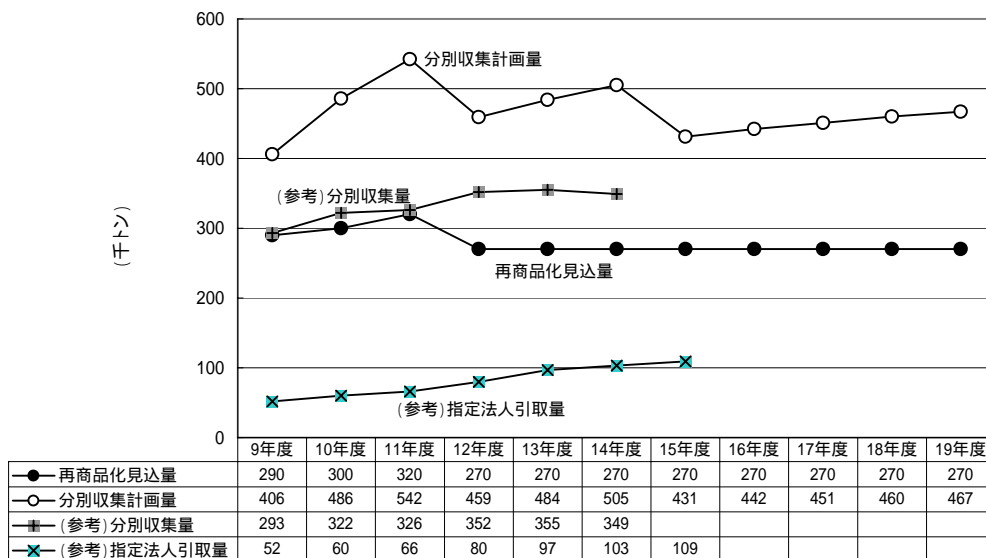
【実施市町村数推移】



再商品化量推移グラフの見方のポイント

- - と - - の差: 市町村が分別収集した容器包装廃棄物のうち、再商品化以外の独自処分量
- - と - - の差: 随意契約等による市町村独自再商品化(再商品化事業者引渡)量
- - と - x - の差: 指定法人ルートの再生処理において発生する残渣量(x/が指定法人ルートの収率)

(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移

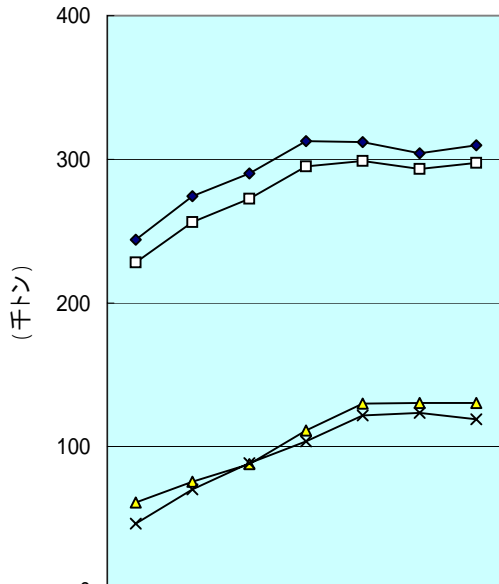


2. ガラスびん(茶色)

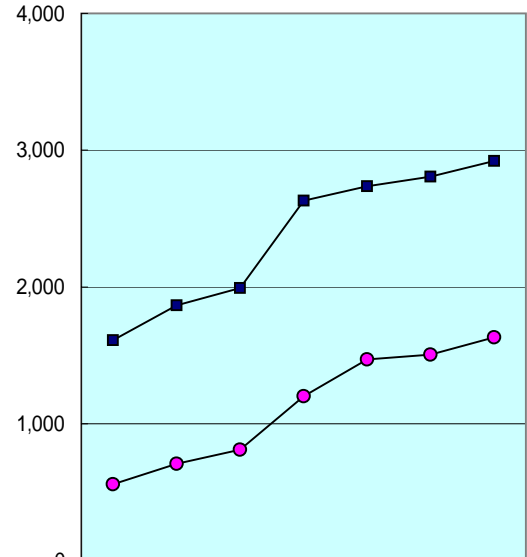
無色とほぼ同様の傾向を示しているが、無色よりも指定法人ルートの割合が大きい。(平成9年度:27% 平成14年度:44%)

指定法人ルートで再商品化をする市町村数が無色よりも多い。

【再商品化量推移】



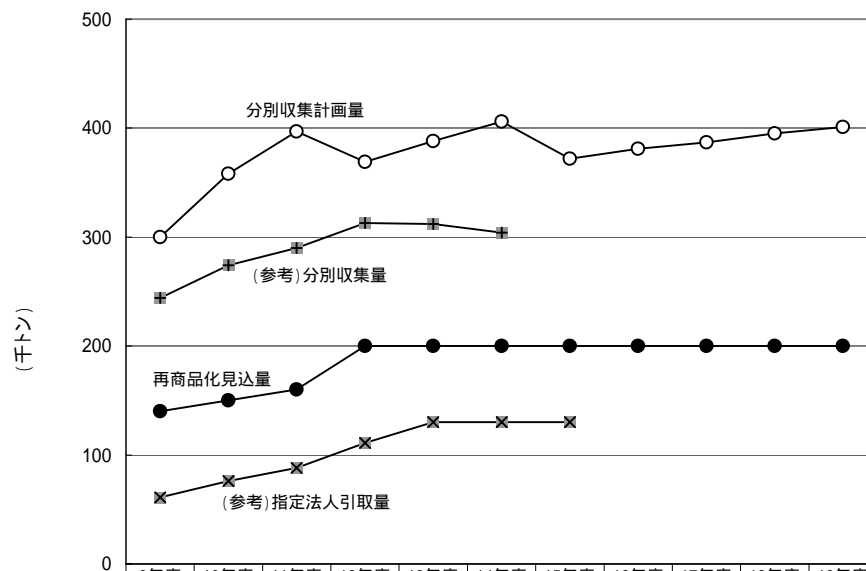
【実施市町村数推移】



	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
市町村分別収集量	244	274	290	313	312	304	310
市町村再商品化量	228	256	273	295	299	293	298
指定法人引取量	61	76	88	111	130	130	130
指定法人製品販売量	46	70	89	104	122	123	119

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
分別収集市町村数	1,610	1,866	1,992	2,631	2,737	2,807	2,922
指定法人引取数	556	708	811	1,201	1,470	1,504	1,631

(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移



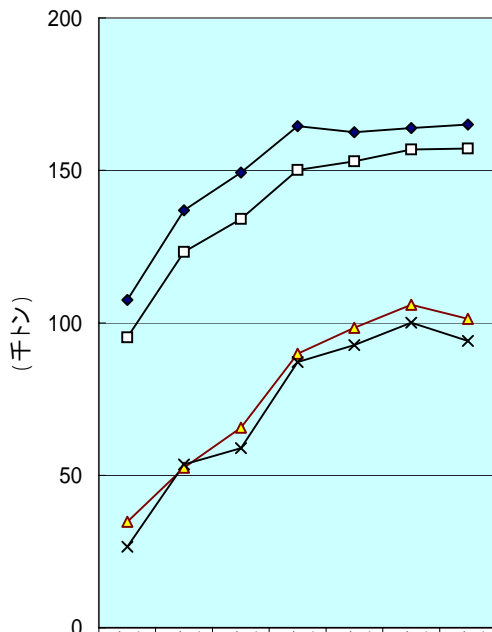
	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
再商品化見込量	140	150	160	200	200	200	200	200	200	200	200
分別収集計画量	300	358	397	369	388	406	372	381	387	395	401
(参考)分別収集量	244	274	290	313	312	304					
(参考)指定法人引取量	61	76	88	111	130	130	130				

3. ガラスびん(その他色)

傾向としては、無色、茶色と同様であるが、指定法人ルートによる割合が最も大きい(平成9年度:39% 平成14年度:67%)。

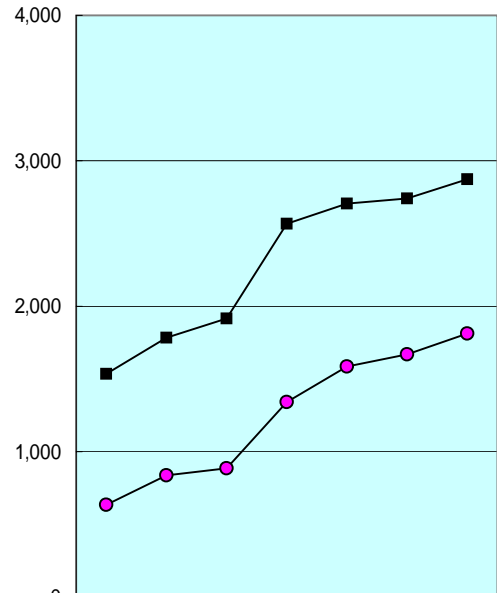
3色中、指定法人ルートを活用して再商品化を行う市町村が最も多い。

【再商品化量推移】



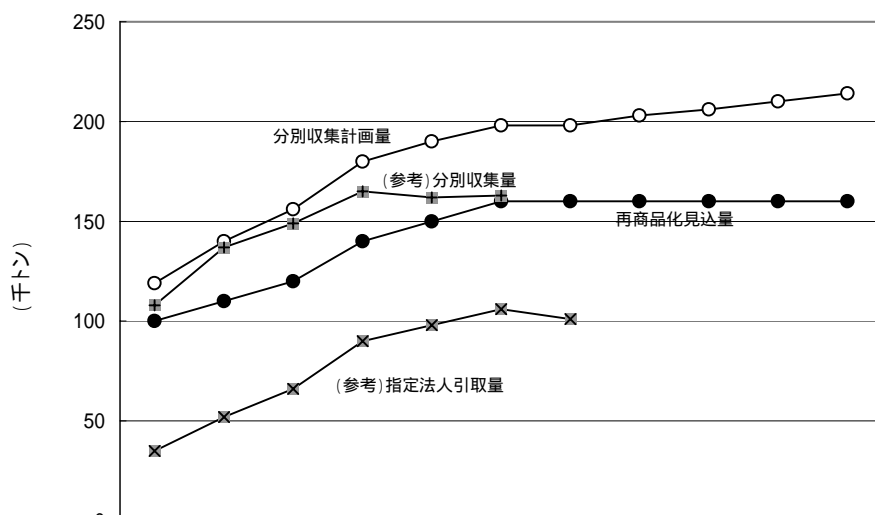
	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
市町村分別収集量	108	137	149	165	162	164	165
市町村再商品化量	95	123	134	150	153	157	157
指定法人引取量	35	52	66	90	98	106	101
指定法人製品販売量	27	54	59	87	93	100	94

【実施市町村数推移】



	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
分別収集市町村数	1,535	1,784	1,915	2,566	2,706	2,740	2,872
指定法人引取数	633	836	886	1,341	1,585	1,669	1,811

(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移



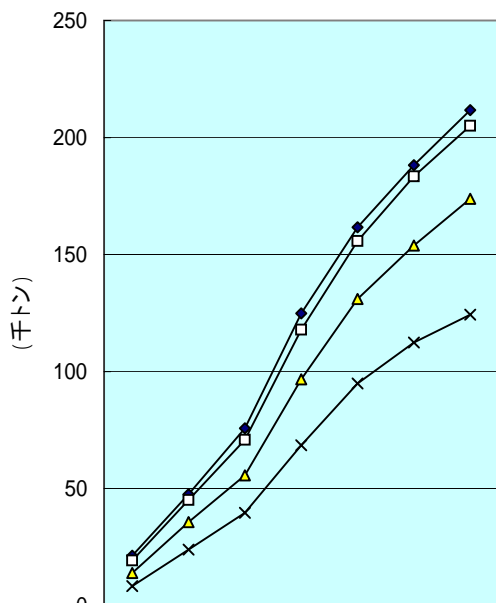
	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
再商品化見込量	100	110	120	140	150	160	160	160	160	160	160
分別収集計画量	119	140	156	180	190	198	198	203	206	210	214
(参考)分別収集量	108	137	149	165	162	163					
(参考)指定法人引取量	35	52	66	90	98	106	101				

4. ペットボトル

平成9年度の施行後、再商品化量、実施市町村数とも急激に増加しているが、独自処理を行う市町村も増加傾向にある。

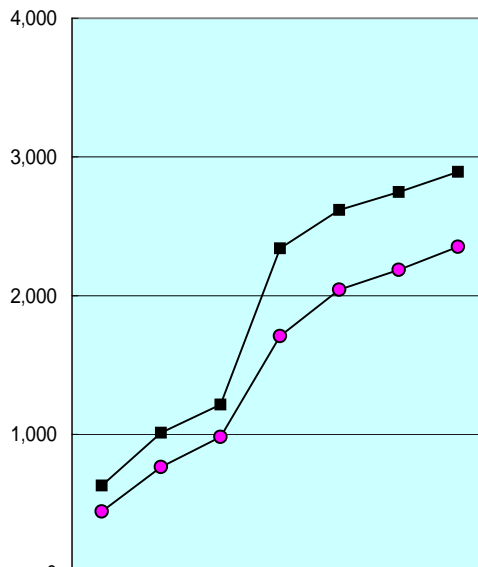
平成9年度に57%であった指定法人ルートの収率(製品販売量/引取量)は年々上昇し、70%台まで至っており、再商品化効率が図られてきたと言える。

【再商品化量推移】



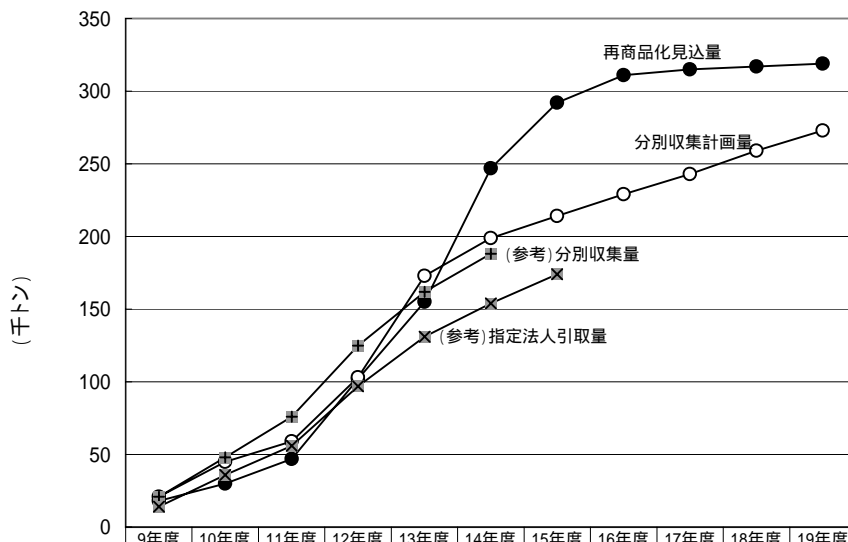
	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
● 市町村分別収集量	21	48	76	125	162	188	212
□ 市町村再商品化量	19	45	71	118	156	183	205
▲ 指定法人引取量	14	36	56	97	131	154	174
× 指定法人製品販売量	8	24	40	69	95	112	124

【実施市町村数推移】



	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
■ 分別収集市町村数	631	1,011	1,214	2,340	2,617	2,747	2,891
● 指定法人引取数	443	764	981	1,707	2,042	2,186	2,351

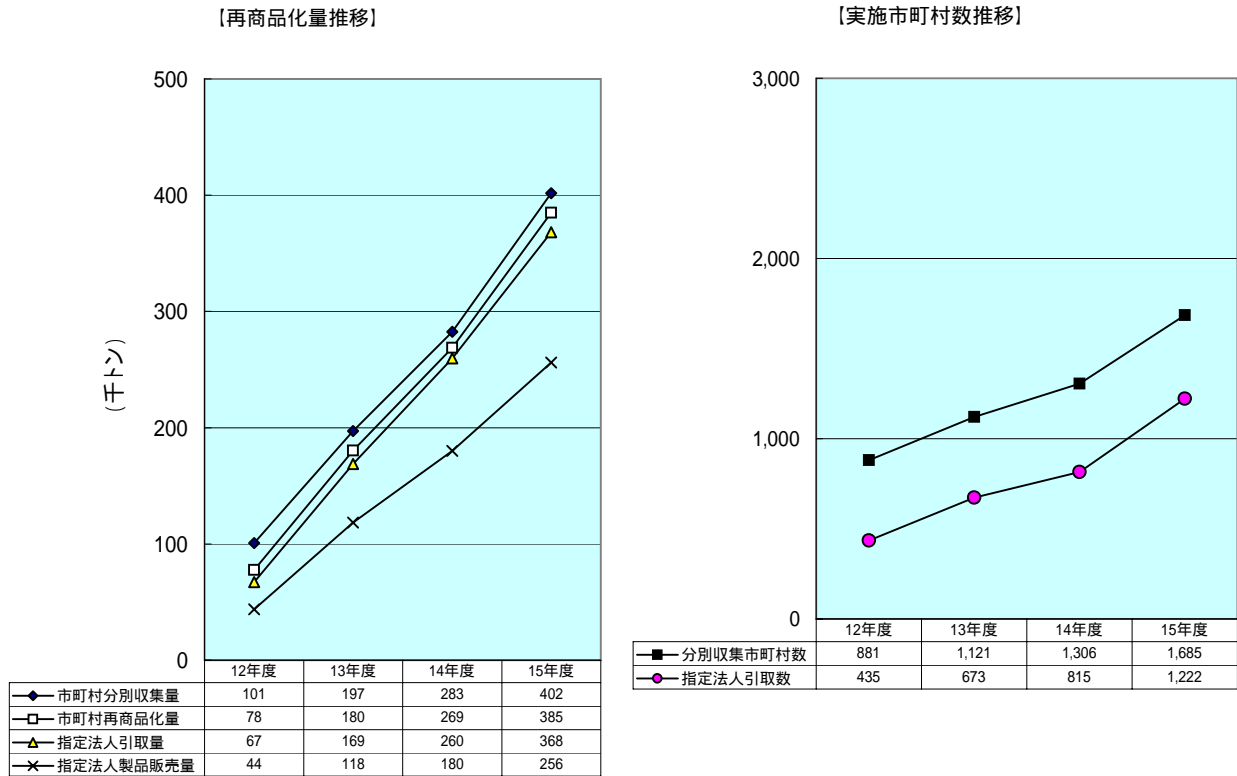
(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移



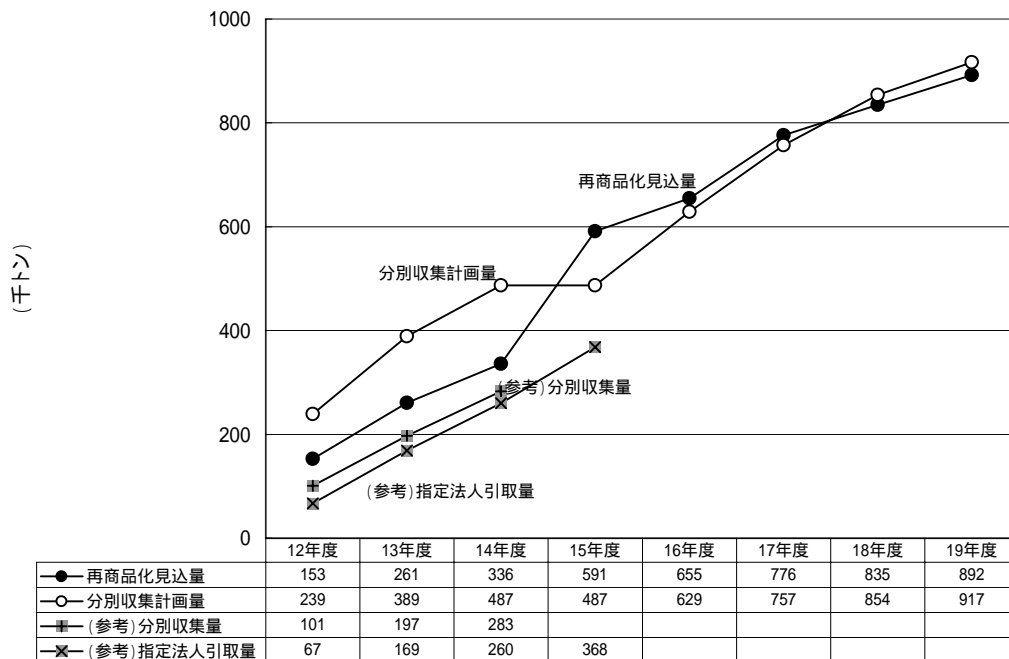
	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
● 再商品化見込量	18	30	47	102	155	247	292	311	315	317	319
○ 分別収集計画量	21	45	59	103	173	199	214	229	243	259	273
■ (参考)分別収集量	21	48	76	125	162	188					
× (参考)指定法人引取量	14	36	56	97	131	154	174				

5. プラスチック製容器包装

平成12年度の施行後、毎年10万トン規模で増加している。市町村が分別収集したもののほぼ全量が指定法人ルートで再商品化されている(平成14年度の指定法人ルートの割合は96%)。未だ、実施市町村数は多くないが、着実に増加している。

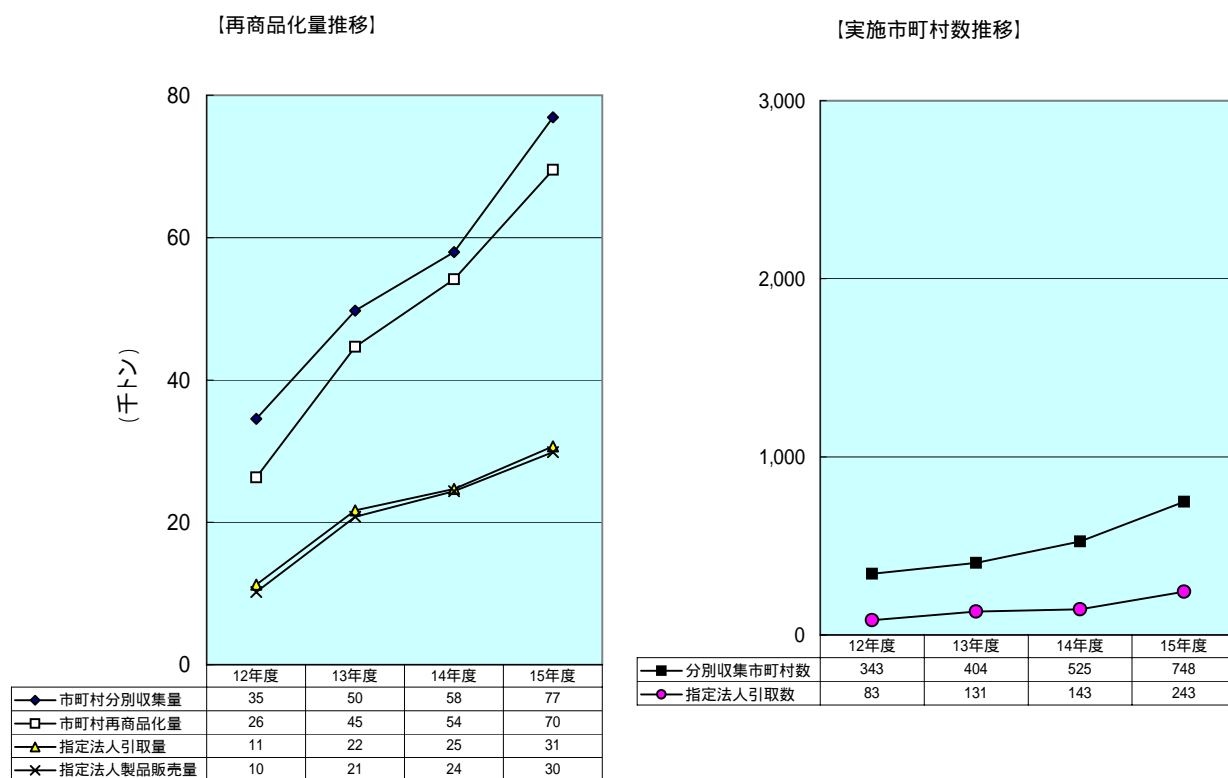


(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移



6. 紙製容器包装

未だ低いレベルであるものの、増加傾向にはある。
 ガラスびんと同様に、市町村独自再商品化の割合が多い(平成14年度市町村独自再商品化割合は54%)。



(参考)再商品化見込量、分別収集量の推移

